

日本とドイツの足と靴の文化の違いを見ていかがでしたか？



【日本の靴】

履き口がゆるく、長く締めても足にフィットしません。耐久性も低く、経年により履き口が緩み、子どもの運動量に耐えられなくなり、底が積り、足も痛んでしまいます。



【ドイツ(オーストリア製)の靴】

吐き口が狭く足首にフィットします。履き口で作られていますので、柔らかい靴の子どもの足をしっかりと守ります。

日本とドイツの靴には違いがあります！

ドイツではファーストシューズから頑丈な靴を正しい履き方と選び方で履かせる為に足指の変形や扁平足やO脚・X脚で悩む子どもは本当に少ないのです。



購買ポイント 最初にゆるいフィット感で履くことを体が覚えてしまうと、ルーズな感覚が基準となります。

ぜひご協力をお願いします。

足育先生®の想い
 これまではっぴーママに約3年連載してきました。私の想いは、日本に足と靴文化を根付かせることで、子どもの将来と才能を発見していきたいと思っています。その為に「親」が足と靴の正しい知識を持ち、子どもに伝えていくこと。それが引き継がれ、日本に正しい靴文化ができていく事です。足育活動は日本の明るい未来作りの為に重要な活動です。

足と靴は難しく深いので3年連載していても伝えることが沢山あり、伝わりきれません。毎月切り抜きていただいている方もいます。まだまだこれから情報を配信していきますので楽しみにしてください。

※ドイツの靴は新潟西店で9月から取り扱いがスタートします。

INFORMATION

新潟西店にて“足育講座開催”
 お父さん・お母さんに子どもの足と靴の知識を覚えてほしい。
 子どもの足を守ってほしい思いから開催します。
 ○8月27日(土)・9月17日(土)・10月8日(土)
 10:00~11:30
 参加費:1,000円(2回目は500円)
 店長が主催します。足育先生は参加しません。
 ※毎月1回開催します。
 詳しくは、025-378-8284まで。

講演会と個別足育診断を開催
 ○8月31日(水)
 10:00~17:00(予約制)
 参加費:1,000円
 いてって 足いく
 長岡市大手通1丁目4番15
 リッツ駅前ビル2F
 TEL.080-5587-3792
 担当:櫻園

小学校・幼稚園・保育園・子育て支援 etc...
足育講演会を募集中!
 一年間50回開催講演会を実施~
 今まで1万人以上の足を履いてきた足育先生が教えます。足と靴の知識をつけ、未来の子供の土(足)を正す事で、運動能力と姿勢を良くしましょう!
 ※講演料は交通費のみボランティアします。
 お気軽にお電話でHPからお問い合わせください。

足育先生®の店
 (あしいく) (あしよく)
足育・整足の健康靴専門店
靴のやまごん
 http://www.yamagon.jp

新潟西店
 新潟市西区小倉 3-26-19
 ☎ 025-378-8284
 10時~17時 日曜閉

胎内西店
 胎内市中央小学前113081-1
 ☎ 0254-44-7793
 10時~19時

村上イオン・プラザ店
 村上市大手通南側200
 ☎ 0254-50-1108
 10時~20時

facebook.
 足育先生が足と体について情報配信中!
 Facebookにて配信。ネットから足育先生で検索“いいね”ボタンを押してね。必ず勉強になりますよ。

LINE@
 店情報満載!登録してね。
 新潟西店 イベント お得情報など
 ID: @xss2008i

胎内西店・村上イオン・プラザ店 イベント お得情報など
 ID: @cus9288i



足育先生のスズメ

あし いく

好評連載 第17回

お父さん、お母さん、子どもの足をしっかり見てあげたことがありますか？



足と靴の専門家
 足育先生 山田 宏大さん
 靴のやまごん常務取締役。上級シューフィッター。幼児子どもシューフィッター、健康ウォーキング指導士、カイロプラクティック師。新潟県正土、自然体健康会代表など数々の資格を持ち、足から健康を考える啓蒙活動のため、各地で講演活動などを行う。

食育という言葉は広く定着してきましたが「足育」という言葉があることを、みなさんご存知ですか？
 足は全身を支える土台であり、身体全体の健康に大きな影響を与えています。足育とは、足、足の指・爪、さらに靴の選び方・履き方を含め正しい知識を得て、理想的な足を育てることをいいます。人生80年の中で一番大切な時期が3~7歳です。この時期に足育できた子どもたちが将来元気に活躍できるといえます。

今回は日本とドイツ(国で足と靴の教育をする国)の比較をしよう!



ドイツは靴文化が1000年以上あるのに対して、日本は戦後になり靴を履く文化ができた為、70年程しかありません。ドイツは国をあげての足育文化があるので、5歳までに9回の健診があり、足から診断され病院とマイスター(日本でいう靴が作れるシューフィッター・ドイツの国家資格)が連携して靴やインソールを作成して変形のない足を国がサポートしてつくっていきます。

日本とドイツの比較(子どもにとって体を支える唯一の大事な足【土台】)

	日本	ドイツ
靴文化	●ゲタの文化(靴文化70年程) 戦後靴の普及はあったが、靴に対する知識(履き方・選び方)が無かった為ゲタ文化の名残りが今でもある。	●靴の文化1000年以上 足と靴の知識は国から、または親から子どもに厳しく伝えられる。
購入方法	●子どもが主導権を持つ ●まだまだ計測しないで靴を選ぶ ●子どもが選ぶキャラクターや、スッと履く為に履き口の広い靴を選ぶ	●必ず親が選ぶ ●子どもが自ら店員に声を掛け計測する ●1人の子どもの1時間かけて靴を選ぶ ●マジックやひも靴を選ぶ(キャラクターは無い)
靴教育	●靴教育制度がない(国の関心が低い) 指定靴問題。人は誰か違うように足も違うが、規則だからと合わない靴を履かせる。	●靴教育は赤ちゃんの頃から国や親から学び、靴教育しながら靴選び ●小学校1年生でひも靴が履けるように幼稚園でひも結び練習を絵本でする
靴メーカー	●靴メーカー全てがサイズ企画がバラバラ 同じサイズでも正しい足型が違えば親が困惑し、子どもに選ばせる	●靴メーカー全てがサイズ企画が一統なので迷わず靴選びができる ●赤ちゃんが舐めても安全な薬剤を使用する
良い靴の基準	●幅が広い・軽い・手を使わずに履ける ※かかとを踏んだり、つま先トントン、手を使わずに履くなど間違った認識をしている。	●ひもかマジックテープで足を固定する ●足刺染みのよい革靴を履かせる ●幅は3種類(大・中・小)から選ぶ ●頑丈な少し重い靴を選ぶ

